

富山県における花粉自動計測とスギ花粉症患者動態

○寺西秀豊，加藤輝隆，稲寺秀邦（富山医科薬科大学公衆衛生学）
吉田行夫（婦中町），槻陽一郎（富山市），林節男（富山県立大学短期大学部）

【はじめに】

富山県では1995年に富山県医師会花粉症対策委員会が設立され、空中花粉とともにスギ花粉症患者調査が行なわれている。ここでは2005年の花粉自動計測装置観測データと、バーカード法，ダーラム法による計測値および患者調査結果との関連性について報告する。

【対象と方法】

花粉自動計測装置は，興和(株)リアルタイム花粉モニターKP-1000を使用し，2004年2月1日から3月31日までのデータについて解析した。スギ花粉症患者数は富山県医師会花粉症対策委員会に報告された集計値を使用した。

【結果と考察】

花粉自動計測装置の蛍光粒子総数と，バーカード法，ダーラム法によるスギ花粉数とのSpearmanの順位相関係数はそれぞれ $r=0.57$ ， $r=0.59$ と有意の相関を示した。若干のスギ花粉症患者は飛散開始日3月7日以前にも発症したが，飛散開始後，発症者の増加が認められた。自動計測総数ピークに一致した患者数のピークが認められ，平行した変動が示された（図1）。花粉自動計測装置は降雪の影響を受けるなどの難点もあるが，今後の改良等により有用なシステムとなりうることが示唆された。

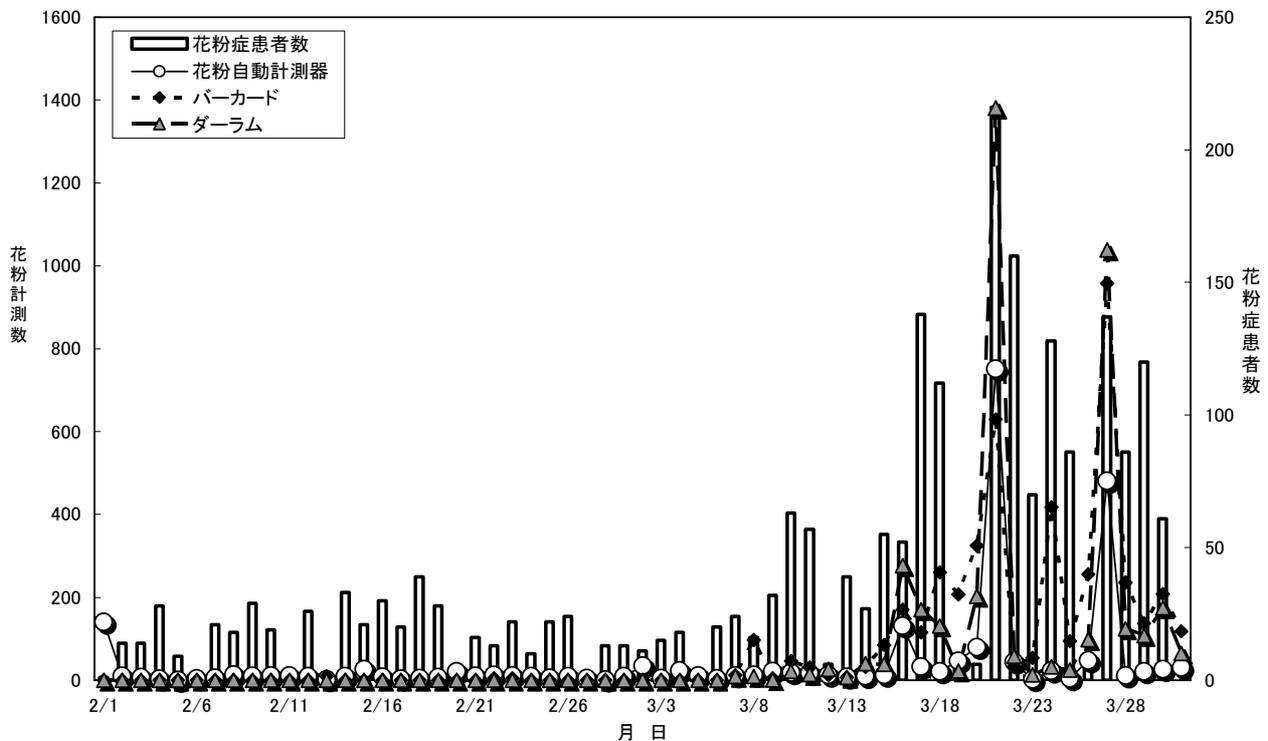


図1.花粉自動計測とバーカード法、ダーラム法による花粉計測数と、患者数との関係